「JICAボランティア 同窓会 in 二本松」開催！

2011年3月11日を境に、地震・津波被害に加え、原発問題、風評被害に悩まされ続けている福島県。そんな福島を元気にしようと「ふくしま青年海外協力隊の会」の呼びかけで、250名を超える全国のJICAボランティア経験者たちが二本松・岳温泉に集結し、「JICAボランティア同窓会in二本松」が開催されました。1日目は全体での講演会と懇親会、2日目は相馬地域沿岸の津波による被災地の視察、二本松訓練所での活動報告、会津での観光、と3つのコースに分かれました 。

3月24日（土） 講演会と懇親会

福島の現状報告に耳を傾ける参加者たち

同窓会日程

- 開会式
- 基調講演「震災後の福島県の現状とこれから」
  福島県生活環境部国際課　鈴木大介氏
- 震災後の福島県内の現状報告
  ～JICAボランティア経験者より～
  農業分野: 齋藤誠一 氏
  教育分野: 坂中澄子 氏
  医療分野: 大橋美貴 氏
- 記念写真撮影
- 懇親会（陽日の郷あづま館）

交流を深めた懇親会

三保恵一二本松市長より参加者へのご挨拶

昨年の震災以後、「世界も、日本も、東北も元気にする協力隊!」の言葉のもと、JICAボランティア経験者達として、被災地を元気にすることはできないか…。ふくしま青年海外協力隊の会の声かけから動き出したこの同窓会は、「同窓会を楽しんでもらい、今までと変わりない福島の良さを、一人ひとりが伝えてほしい（ふくしま青年海外協力隊の会、小熊則子会長）」と、全国から集まったたくさんのJICAボランティア経験者に向けた感謝の言葉から始まりました。

福島県国際課より鈴木大介さんを迎え行われた基調講演では、災害対策本部の一員として避難所となっていた二本松訓練所でのご自身の活動に触れ、「支援ではなく、誰もが持っている生きる力をいかに引き出すか」を心がけていたこと、また参加者に対しては「福島を想ってくれていることが一番の支援である」ことが語られました。
その他、福島県出身のJICAボランティア経験者による報告会も行われ、教育、農業、医療の各分野から震災後の混乱した様子や、その後の取組みが紹介されました。

震災の現状把握の後、JICAボランティアのネットワークをより広く、より深くするために行われた懇親会は、JICAボランティアがいつもお世話になっている岳温泉街にて行われました。ざくざくなどの郷土料理も振舞われ、参加者たちは美味しい料理と同志との久しぶりの再会を楽しみました。

また懇親会には、「三保恵一（みほ　けいいち）二本松市長（にほんまつ地球市民の会会長）」も参席され、全国から福島現状を知り、復興の力になりたいと集まった参加者にお礼を述べられました。

3月25日（日） ❶被災地視察（相馬）コース

天皇、皇后両陛下やブータン国王夫妻も黙祷を捧げた原釜地区

視察スケジュール

岳温泉出発	被災地視察
↓	・原釜地区
道の駅川俣	・相馬原釜漁港
↓（飯館村経由）	・磯辺地区
相馬市長講話	↓
（相馬市総合福祉センター）	道の駅そうま
↓	

立谷市長による講話

3コース同時進行の2日目は、実際に被災地を視察したいとの想いから、参加者の半数以上が相馬コースを選択しました。

震災による津波被害の大きかった相馬市に向かう道中は、原発事故により多くの住民避難が続いている地域付近の様子を確認しながらの移動となりました。

相馬市に到着後、相馬市総合福祉センターでは立谷清秀（たちやきよひで）相馬市長より、震災当時から今までの対応について、当時の混乱した状況を映像などを交えながらお話しいただきました。

続いて、津波による被害の実態を知るため沿岸部へ向かった参加者たちは、漁港や住宅街など、震災前の街の面影をほとんど残していない景色を目の当たりにし、一人ひとり、様々な想いを巡らせているようでした。

沿岸部の被災状況を視察する参加者たち

❷JICA二本松コース

青森県青年海外協力協会では、震災の影響で自宅を離れている福島の子ども達を冬の青森県に招待し、ウィンターキャンプを実施したことを報告しました。

活動報告団体

- JICA二本松
- 青年海外協力協会
- ひらそる
- 青森県青年海外協力協会
- 沖縄県青年海外協力協会

沖縄県青年海外協力協会
会長 **宮平　大輔** さん

私は沖縄県の活動について報告させていただきました。それは「ゆいまーる一」という循環型フリーマーケットです。OVが持ち帰った海外の品物をフリーマーケットで販売し、その収益で福島の物産を購入する。次回は購入した物産を現地の現状説明と合わせて販売し、その収益で更に物産を購入する。それを継続していくというものです。「ゆいまーる一」とは沖縄の方言で全てはつながっているというものです。

当日は現地の方々の考え方や想いを直接感じることができて、非常に大切な経験となりました。今後の活動への力となりました。笑顔が1つでも増えるよう沖縄からも願っています。

青森県青年海外協力協会
会長 **村木　裕俊** さん

同じ東北ということもあり福島県OV会には大変お世話になっているのですが、今回は福島県OV会の結束力の強さを感じた会でした。日本全国からたくさんの人が集まり、あれだけのイベントを開催するにあたっては相当なご苦労があったのでは、と思います。それにも関わらず大きな混乱もなく会を終えられたのは、会長をはじめとする福島県OV会皆様のご尽力があってこそだと思います。この場を借りて改めてお礼申し上げます。

私個人としては2007年に二本松訓練所を退所して以来の再訪で、懐かしい同期、同任国の隊員にも再開できとても楽しい会でした。また多くの新しい知り合いもできました。今回の縁がさらに大きく広がることを期待したいです。

❸会津観光コース

会津コースでは、まず猪苗代町の野口英世記念館へ行きました。記念館では、各自展示されている資料や野口英世の生家を見て福島の偉人の歴史に触れました。

続いて会津若松へ。会津のおいしいものを食べたい、ということで「めでたい屋」で昼食をとりました。ラーメンやソースかつ丼などで会津の味を満喫し、鶴ヶ城へ。天気予報では雨か雪の可能性も、と言っていましたが、少し晴れ間が見えるときもあり、まずまずの天候の中、お城を散策しました。お城の中を見てもらった後に、改修工事が終わった鶴ヶ城をバックに記念撮影しました。鶴ヶ城会館でお土産を買って郡山駅へ移動。参加者は少なかったものの皆さん会津へ足を運びたかったという方ばかりで、とても満足していただけたようでした。

H3年度1次隊　ガーナ
数学教師
上野　健一 様
（会津ツアーガイド）

参　加　者　の　声

H17年度2次隊
メキシコ　青少年活動
高橋　司 さん
（相馬ツアーガイド）

こんな形（福島支援・被災地視察）での名目となってしまいましたが、同窓会で久々に友人・同期にあったり、え??ここでこんな風に繋がっていたの?というような新たな出会いもたくさんあったりで、皆さん楽しそうにしているのが印象的でした。福島の未来は、早々には明るくはならないと思いますが、くす火でも火を絶やさず、　そのなかで少しでも明るく生きていければと思っております。

H19年度2次隊
ザンビア　体育
戸川　弘子 さん
（相馬ツアーガイド）

震度7の地震、21mの大津波、原発爆発の全く予想もしていなかったことに遭い、同じ福島県内でもこれらの災害についての感じ方が一人ひとり違うことに戸惑いながらも、それが現実だと実感していました。そんな中でも現実を伝えたい思いがあったので、全国から集まってくださったOVの皆様に私の経験や福島県の現実を伝えることができ、自分の中のモヤモヤが取れたように思います。

H12年度1次隊
パラオ　小学校教諭
坂中　澄子 さん
（県内の現状報告・教育分野報告者）

「一人じゃない!」
震災から一年、張りつめてきた気持ちが折れそうになった頃、協力隊同窓会in二本松を迎えました。今や「フクシマ」と呼ばれるこの地に心を寄せて下さるたくさんの人々がいることに、胸が熱くなり、涙がこぼれました。私達を見守ってくれる仲間達がいることを心の支えに、復興に向かいこれからも頑張っていきたいと思います。

S47年度3次隊
エル・サルバドル　器械体操
坂本　百合枝 さん
（避難先より参加）

ボランティア同窓会In二本松では、ボランティアスピリット溢れる多くのOVの多岐にわたる支援活動を知り、感激で胸が一杯になりました。避難している者にとって「一人じゃないんだ」と思えることが、折れそうになる心を支えてくれています。お礼の言葉もありません。
復興・再建まで、前途多難な道ですが、前に進む大きな力になりました。

H19年度1次隊
ボツワナ　日本語教師
原田　有紀 さん
（京都より参加）

地元が被災地となり、初めて対面する課題に必死に対応されてきたOVや市民の方の話しを直接聞き、改めて震災の大きさを実感するとともに、彼らの地元への想いを感じた"同窓会"でした。またたくさんのOVとの交流ができた貴重で楽しい機会でもあり、有意義だったと思います。

H21年度2次隊
スリランカ　理数科教師
田中　悦太郎 さん
（山形より参加）

二日目の震災支援報告会では、避難所となった二本松訓練所の様子や、各地で支援を行っているOB会の報告を聞くことができました。特に、福島の子どもたちに青森の雪を体験させたものでは、福島県と青森県の協力がとても良いと思いました。発表でも、ひとりひとりの思いが述べられていて、しっかりと心に伝わってきました。

関係者よりご挨拶

ふくしま青年海外協力隊の会
会長 **小熊　則子** さん

東日本大震災後、何かしなければ、と思いながらも、仕事や家庭のことに追われ、毎日が過ぎていきます。青年海外協力隊員として任国でボランティア活動に専念できた時と今は状況が全く違うけれど、当会の多くのメンバーが歯がゆさを感じていました。福島のために何がしたい、というメンバーの強い思いを、協力隊OB会らしい形で実現できないか、模索を続けていました。そんな中で、全国の協力隊OBの力を福島の復興のためにお借りしたいと思って企画したのが「JICAボランティア同窓会」です。

当日は、全国から250名超のOBが駆けつけてくださり、福島の現状と復興への思いをお伝えすることができました。当会メンバーがそれぞれの専門と特技を生かし、「同窓会」成功のために一丸となって取り組んでくれ、それはまるで、任国において、様々な分野の隊員がその国の国造りのために汗を流した時のようでした。国際協力と復興支援には、多くの共通項があると思います。全国の協力隊OBの応援のもと、福島復興のために自分たちの経験を生かしていきたい、と思いを新たにしました。

岳温泉観光協会　事務局
山谷　勝敏 さん

1000年に一度ともいわれる大震災から1年を迎えた時期に行われた「JICAボランティア同窓会in二本松」では岳温泉をご利用いただき感謝申し上げます。震災復興を目的に全国から協力隊OB・OGの方々にお集まりいただき、旧交を温め岳の名湯をご堪能いただいたと思っております。当日は多くの方が散策する姿が見られ、以前の様な活気が温泉街に戻ってきたと感じておりました。いまだ先が見えない放射能による風評被害に苦しむ事業者が多い状態が続いております。

岳温泉は三度の大災害に見舞われ、その度ごとに移転を余儀なくされてきた歴史がございます。ただ、先人たちの温泉にかける熱意と並々ならぬ努力によりいずれも復興を成し遂げております。これは岳温泉にはそのDNAが安達太良山から溢れ出る温泉のように皆に根付いているからだと自負しております。協力隊OB・OGの皆様はもちろん、地元一丸となり風評払拭に向けて動き出していきたいです。皆の心のふるさとを取り戻すためにも。